

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 31 日

事業所名 放課後等デイサービス オーパ・アスリートチャレンジ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		地域連携を行い活動場所の確保	現状地域の小学校の学校開放や有料での競技場使用だけでなく更なる地域拡大を目指し協力していただける運動場所の確保を目指す
	2 職員の配置数は適切である	100%		当日の利用者数に応じて事業所間にて連携し配置調整を行っています。	年間の流れや学校行事などから推測できる事態を事前に把握し対応を更に具体的にできるように務める必要がある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	視覚的、身体的なバリアフリー化を進めています。	現在身体的な障害を持った利用者様がないこともあり不十分な点もあるため今後可能な範囲でバリアフリー化を進めていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		系列の施設管理者と月に2回以上会議を行い互いに業務改善に対し意見を交わしています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		事業所アンケートを元に業務改善に努めています。	毎月の活動報告を保護者へかえしておりますが、活動内容について周知できていない保護者も今回の調査でわかりましたので、配布や掲示の仕方に更なる工夫が必要である
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページにて公表しています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	70%	30%	顧問行政書士による定期的な監査を行っています。	適宜運営における課題点を指摘していただいています。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		コロナ禍での影響もあり、外部で研修を行えない分、内部での研修をおこなっています。	顧問行政書士やエグゼクティブなどのパソコン講座、相談支援などの支援の仕組みについて内部研修を行っていますが、障がい理解や専門性の高い運動を学ぶ機会も必要性を感じる
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		利用者様への聞き取りや保護者様との面談を踏まえ支援計画を作成しています。	社員スタッフが主となり作成することが多いので、関りのあるスタッフにも会議に参加して支援について話し合う機会を設ける。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		オーパグループ内で用意したアセスメントツールを使用しています。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	系列事業所全体でチームをつくりプログラムを立案しています。	利用日により年代や性別に幅があるため、複数のプログラムを用意し高い質のサービスを継続的に提案できることを続けていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		系列事業所とプログラムを共有しながら日々新しい活動も取り入れています。	利用者の実態に合わせた提案ができるように日々構築する必要がある。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		プログラムを平日、休日等異なるものを設定し固定化しないようにしています。	利用者の実態に合わせた提案ができるように日々構築し提案しています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		利用者様のニーズに合わせて個別・集団活動を行っています。	コロナ禍の為電話での面談が多くなっていたので、感染状況も加味しながら関係機関との面談を行います。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		支援開始前に打ち合わせを行い、一日の流れを確認しています。	一日の流れに加え、支援の観点についても付け加えて伝えるように行っています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	送迎の兼ね合いもあり、終了後は全員が参加はできていません。	必要に応じて即時行っています。また送迎に出ているものも後に共有できる体制を今後もとっていきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		個別支援計画を確認しながら日々の記録を行い支援の見直しを行っています。	主任支援員を中心に記録を残すようにしています。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		定期的なモニタリングと適宜面談を行っています。	必要であれば系列事業所の利用などを提案しあらたなサービス提供を系列にて提案できるようにする。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%		社会経験を養うために複合的に活動を行っています。	コロナ禍の為地域の活動には積極的な参加はできませんでしたが、感染状況を加味しながら参加を検討します。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		児童発達支援管理責任者を中心に指導員も交えサービス担当者会議に参加しています	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80%	20%	学校との情報共有を積極的にを行っています。	保護者様と確認しながら、連絡・送迎のミスをなくしていけるように努めていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%		現在、該当の利用者様はいらっしゃいません。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	70%	30%	子ども総合支援センターや児童発達支援事業所と連携をとらせていただいています	こども園等とは必要に応じて対応させていただきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	70%	30%	卒業し学校が変更になる事例がない為実施無し。	今後考えられる内容であるので経験事業所と連携をし対応できるように準備する必要があります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	子ども総合支援センターと連携をとりながら助言等をうけています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%		以前は外出先で関われる機会を積極的に利用しておりました。	コロナ禍の為地域の活動には積極的な参加はできませんでしたが、感染状況を加味しながら参加を検討します。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%		統括責任者を中心に参加をしています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎時や連絡帳、必要に応じて電話や公式LINEを利用しています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%		必要に応じて適宜福祉サービスなど情報提供を行っています。	保護者様のニーズを聞き取りながら必要な支援を行っていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	90%	10%	契約時に説明させていただいております。その他必要に応じて説明させていただいております。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		送迎時や連絡帳、必要に応じて電話や公式LINEを利用しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%	保護者の交流できるイベントを毎年企画していましたが本年は行えていません。	コロナ禍の為今回は控えさせていただきました。今後は感染状況を加味しながら参加を検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		何か不具合、不都合があった際は積極的に対応させていただきます。	対応を迅速に真摯に行うとともに、苦情件数を0にできるように注意し支援をおこないます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		毎月、会報(オーパ通信)を配布させていただいております。	
	35	個人情報に十分注意している	90%	10%	個人情報の保管にはキャビネットを活用しています。	ご利用者同士の連絡帳等の取違いなどがないように十分に注意をします。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%	送迎時や連絡帳、電話や公式LINE等必要に応じて使い分けています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	70%	30%	現在は実施しておりません。	保護者様のニーズを聞き取りながら必要に応じて検討させていただきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	70%	30%	緊急時対応マニュアルを保護者様に配布し共有しております。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		避難訓練や映像による講座をおこなっています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		虐待防止研修への参加を行っています。	虐待防止対策者を設定し周知することをしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		現在、そのような対応の必要なご利用者様はいらっしゃいません。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		食物アレルギーの調査アンケートを実施し、全職員が確認できるようにしています。	保護者様に確認し対応しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		系列事業所全体で作成共有をしています。	